

2004年2月4日

ニチメン・日商岩井ホールディングス株式会社
ニチメン株式会社

ニチメン、豪州植林会社から大王製紙向け木材チップを契約

～3年間で50万トン超、約35億円～

ニチメン株式会社は、2004年1月14日、豪州最大手の植林会社である「グレート・サザン・プランテーションズ（GSP）」と、同社の植林木から生産される木材チップの購入に関する3年間の長期契約を締結しました。木材チップは、GSP社が生産、ニチメンが輸入して、全量を大王製紙株式会社に販売するものです。3年間の契約数量は50万トン超で、契約金額は約35億円となります。

同木材チップは豪州・西オーストラリア州南部のアルバニー市（パース市の南東300km）でGSP社が行なっている植林地から生産されます。GSP社は約10年前から同地でユーカリの植林を行っており、今年から伐採を開始いたします。ニチメンと大王製紙は、2001年11月に同社と3社間覚書の締結を行って以来、伐採が始まる今年に向けて協議を重ね今回の契約締結に至りました。

ニチメンは、1999年末から日本向け製紙用チップの輸入販売に参入、現在はタイ産広葉樹チップとニュージーランド産針葉樹チップを合計で年間約50万トン輸入しており、植林木チップとして全量を大王製紙に販売しています。豪州産の製紙用木材チップについては初参入ですが、今後は今回の西オーストラリア州に加え、GSP社が植林を行なっているヴィクトリア州、クイーンズランド州を合わせて約52,000ヘクタールのユーカリ植林木を核として、早期に年間約100万トンを豪州から輸入する体制を整えます。これにより、ニチメンは植林木から生産される木材チップの取扱いだけで約150万トン規模になります。

現在、わが国では約700万トンの広葉樹チップを豪州から輸入していますが（2002年）、その80%以上は天然木を伐採して生産されたチップといわれています。環境面の配慮から製紙メーカーとしては植林木の使用比率を高めており、特に豪州で生産される植林チップへのシフトが予想されます。またGSP社が植林しているのは、ユーカリの中でもグロブラスと呼ばれる最も製紙に適した品種であることから競争力も併せ持っております。

以上

「グレート・サザン・プランテーションズ」会社概要

会社名 : グレート・サザン・プランテーションズ
Great Southern Plantations

住 所 : 1205 Hay Street, West Perth, Western Australia 6005, Australia

代表者 : Mr. John Young, Managing Director

設 立 : 1987 年

売上高 : A\$1 億 9000 万 (2003 年 6 月期)

総資産 : A\$2 億 2000 万 (2003 年 6 月期)

その他 : 1999 年豪州証券取引所上場。投資家数約 1 万 5000 人、運用資金約 A\$4 億 7000 万。

【本件に関する問い合わせ先】

ニチメン・日商岩井ホールディングス株式会社 広報室 関口 TEL : 03-5446-1061